

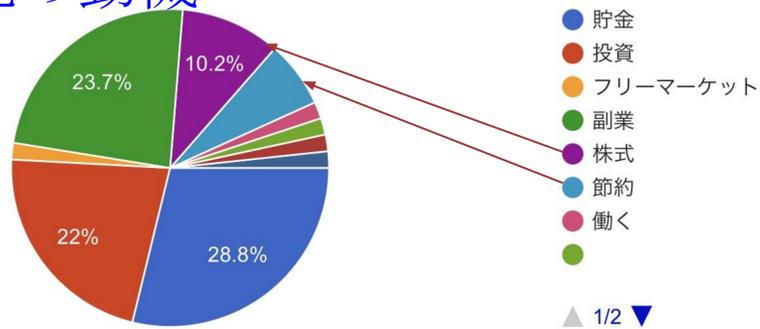


# TIME IS MONEY ～お金しか勝たん～

班員 甲斐陽成 児玉心澄 飯干杏  
神田詩生 矢野真衣 児島光

指導者 津嶋大樹先生

## 研究の動機



延岡高校2年生を対象にしたアンケート  
「10年間で一番お金を増やす方法は何かと思いますか。」

<アンケートの結果>

2年生が考える、10年間でお金を増やす方法は  
**貯金**がもっとも多く、次いで**投資**、副業と答え人も同程度いる  
(約三割の生徒が貯金と回答している)

しかし、日本の定期預金金利が0.002%であるため銀行に貯金することでお金を増やすのは難しい。

例えば、**100万**銀行に預けても年間に**20円**しか増えない  
世界でも高金利といわれるコロンビアでは、定期預金金利が11.64%  
だから**100万**預けたとき**11万6400円**

老後の生活で必要だといわれている資金はおよそ**2000万円**。  
(ライフプランによって異なる)老後の貯蓄を少しでも多く増やす必要がある!

貯金ではなく、他の方法でお金を増やすことが重要だと分かった。  
また、現代の若者は学ぶ機会が少なく、投資などの金融に関する知識が足りていない状況にある。

そこで新しいお金の作り方となる「投資」についての着目し、金融に対する知識を深める必要があると考える。  
私たちが教師となって指導案をつくり、将来に役立つ投資の知識を普及したい。

## 仮説

貯金にうってかわる有効なお金の増やし方は**投資**であると考えます。  
また現代の若者には金融に関する知識があまり普及していないことから、投資などの金融に関する知識を定着させるには金融教育を複数回実施する必要があると考えます。

## 先行研究

金融教育が金融リテラシーと金融行動に与える影響  
(国際ビジネス研究センター)

金融教育は金融リテラシーを高めるだけでなく、金融行動を改善できることが分かった。私たちは金融教育で取り上げられる項目の中でも投資に着目し、金融教育のメリットを最大限生かした指導案をつくる。

## 参考文献

- ・学習指導要領(家庭科)
- ・高校生のための金融リテラシー講座



## 調査方法

もし私たちが教師になって投資に関する特別講座を実施すると仮定し、「投資について」どのように教えるのかをまとめた私たちなりの指導案を提案する。投資についての講座という形で先生のご協力のもと講座を実施する。その後アンケートをとり、指導案の改善を行う。

### ①金融教育に関する下調べ

・金融教育の目的、歴史、現状

### ②先生方と市役所の方に話を聞く

・家庭科の先生に話を伺い、1年生の時に受けた金融に関する授業の資料をいただく。

・市役所の方にお話を伺い、アドバイスをいただく。

### ③情報共有、まとめ

・各自が調べた情報をまとめ、授業案の作成に活用する。

### ④指導案作成

・1月に先生方に作成した指導案をフィードバック(評価、アドバイス)していただく。

<講座の流れ>

### 導入

・アンケートから分かる延岡高校生の金融に関する関心、金銭感覚

・ライフプランにもとずいた**シュミレーション**

→それぞれが将来必要とするお金、退職後に必要な資金

### 展開

初級(初心者でもはじめやすい)

メリット、デメリット  
始め方、注意点  
をおおまかに説明

#### ・公共債

国などから債権を購入→利子を受け取る、満期には全額返金

#### ・投資信託

専門家が代行する (例) 金融状況にあわせて株を売る  
→知識がない、投資は初めての人でもできる



中級(リスクが大きい、知識が必要、利益が大きい)

#### ・株式

企業の資金提供(株を買う)→配当などで利益を得る

#### ・外貨預金

外国の高金利な銀行に預金→日本より利益が高い



まとめ、文献の紹介

### ⑤実践、改善

・実施後、生徒にアンケートをとり改善点を見つける。

・アンケートのなかで講座内容の理解度をはかり、成果の有無を判断する。



## 考察

先生方にフィードバックをお願いしたところ、内容に誤りのあるところや矛盾点を指摘していただいた。また、根拠が曖昧であることや伝わらない表現があることなどたくさんの改善点が見つかった。根拠を具体化し、正しい知識が身につく指導案へと改善したい。

## 謝辞

下記の方々にアドバイスを頂いた。厚く御礼申し上げます。

延岡市役所教育委員会 学校教育課 後藤和之氏

延岡高校 澁谷好一校長 津嶋大樹教諭 五反田聡教諭

宮崎修子教諭 壹岐菜都美教諭

アドバイザーの皆様